

令和2年度 第2回 松本市男女共同参画推進委員会 会議録（要旨）

1 日時

令和3年2月15日（月） 午後3時30分～午後5時

2 場所

パレア松本（松本市女性センター） ネットワーク室

3 出席委員（19名）

委員長	熊崎 芳和	委員	熊谷 留理子
副委員長	平田 治美	委員	田屋 昌子
委員	青木 豊夫	委員	戸田 竹廣
委員	赤羽 みち子	委員	中澤 孝
委員	石毛 久美子	委員	中島 美帆
委員	一ノ瀬 知佐子	委員	降幡 英彦
委員	犬飼 陽一	委員	松山 絃子
委員	小原 静代	委員	宮川 昇
委員	上條 尚義	委員	本木 善子
委員	唐澤 秀子		

4 事務局

総務部	部長	伊佐治 裕子
人権・男女共生課	課長	前澤 典子
同上	課長補佐	山崎 ひとみ
同上	課長補佐	窪田 直美
同上	主任	大澤 希実

5 会議次第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 会議事項

ア 第5次男女共同参画基本計画（国）について<資料1><資料2>

イ 男女共同参画・人権に関する意識調査について<資料3>

(4) 研修

パートナーシップ宣誓制度について

(5) 今後の予定

6 会議の要旨

事務局

会議事項アについて、事務局資料に基づき説明

委員長

会議事項アについて、事務局の説明が終わりました。ご意見・ご質問のある方はお願いいたします。範囲が広いですので、わからない部分等、皆さん、いかがでしょうか。

松本市の育休の取組みについてお話がありました。ちょうど2月6日の新聞に載っていたところで、少しずつでも進んでいると実感しました。何か少しでも進めることが大切だと思います。ここはどうなのかという質問があれば、是非お願いします。

委員

今の、第5次の計画の説明はとてもたくさんあったのでどこから話せばいいのかと思いましたが、委員長から育休のお話が出たので、私もそれに関係した内容でお話したいと思います。

昔、「れんげつつじ」という男女共同参画に関する、広報と一緒に入ってくる通信がありました。たまたま10年位前に編集委員をやっていて、それが平成25年のことです。男性の育休取得をテーマにして、松本市役所の取得者を調べたところ、その時点で0でした。そして、その時に過去に取得した方がいたのはいつだったかを市役所に聞いたところ、10年前の2003年にお一人だけ取得された方がいました。その方は割と長期に、長期と言っても1か月か2か月くらいですが取られて、とても良かったという感想でした。その時、既に10年前の方しかいらっしやらなかった。今回また0%という数字が、結局20年くらい前と何も変わっていないということに今回も驚きでした。

一つ展望として明るく感じられたのは、若手職員のプロジェクトを結成されて、ずっと0だったのが13%になったということは素晴らしいことだと思います。ただただやりましようと言っても、結局は全然進まないままですが、新たなことを始めて成果があったということであれば、それを具体的にどうやって展開していけばいいのかという取組みに結び付いていくといいなと思います。これは松本市役所内の大いなる一歩ではないかなと思います。

もう一つ、私は国際女性教育振興会という関係で出席しているのでそれに関してお話しすると、世界の中で日本はものすごく遅れているんですね。ですから、どうすれば育児休暇の取得が増えていったのか、例えばスウェーデンやポーランドなど色々なものがありますが、一つは制度的にペナルティ、例えば女性と男性の育休を合わせて日数を設定して、男性が取得しないと育休の期間を短くしますよとか、男性も取るような筋道をつける。もう一つは、経済的な補償があるということで、男性も女性も給与の8割とか9割の保障をつける。取らなければ補償がない、取れば補償が付くということ。制度に対する予算が組まれるということが絶対的に必要であって、それがないと結局どなたも取れずにそのままになってしまう。予算が実行の力に大きく影響してくると思います。その辺りのところを一生懸命考えていただければと思います。

委員長

ありがとうございました。他の方の意見もお聞かせいただければと思います。何か他にありますでしょうか。

委員

資料の11ページのところに、「第4分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進」ということで松本市の状況で信州大学のグラフを載せていただいています。大学のホームページからということでももちろん合っておりますが、この文脈でこのグラフを出されると、若い人に責任を押し付けていっているようなグラフになっています。これは信州大学の実態としては、男女比に偏りがあるような感じがしますが、これにも増して教員の方も助教・准教授・教授と役職が上がっていくごとに（女性の）割合は減ってきています。そのことがおそらく学生さんのその分野を選ばない（理由になっている）要因にもなっていると思います。あるいは選んだとしても大学院進学率はどんどん女子割合が下がっていっています。なので、若者のせいではなくて教育者の方の責任だということをおもひも込めて。信州大学の方も原因はわかっているのかというところで頑張っています。この見方をご注意申し上げたいということです。

委員長

ありがとうございました。他にありましたらお願いします。
リモートの方はよろしいでしょうか。
では、事務局の方で何かありましたらお願いします。

事務局

ご意見いただきまして、ありがとうございました。中島委員からのご指摘のあった部分については、あくまで今の実態ということでグラフを作らせていただきました。大学のホームページを見ますと、女子学生も一緒に学んでいる写真なども載っていますので、そういった努力もあると思います。教育の中でもう少し下の世代のうちから、なんとなく「理系は男の子」「文系は女の子」という風潮があります。小中学校とも連携してこれから取り組んでいかなければいけないと考えています。

それから、今年度はコロナの関係でオンラインになってしまいましたが、毎年、中高の女子学生を対象に夏休みを利用しての「夏の学校」というものを国立女性教育会館でやっています。理系の分野で学んでいる方と直接接することで自分の進路を考えていく取組みもあり、松本市は補助金を出して、女子生徒のみなさんに若いうちから参加していただけるような事業を行っています。課題はたくさんありますが、小さいうちから「男女共同参画」の視点を盛り込んだ教育をしていければいいと思いますので、今後、教育委員会とも協力していきたいと思っています。

委員長

ありがとうございました。
それでは、「男女共同参画・人権に関する意識調査について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

会議事項イについて、事務局資料に基づき説明

委員長

今、意識調査について、事務局から説明がありました。質疑に入りますので、ご質問・ご意見のある方はお願いします。

第4次（計画）が令和4年度までになりますので、令和5年度から令和9年度の第5次計画策定の基礎資料になるということですね。来年度、このような取組みがあります。平成28年度の調査のアンケート項目についてはこちらに記載されていますが、この他に入れておいた方がいいというものや、またはこの部分をもう少し変えた方がいいのではないかとすることがあれば、この場で必ずというわけではありません。時間はまだあります。考えていただいて、少しでもより良い資料が得られるように対応をしてもらえるように思います。今日何かあれば、この場でお出してください。

委員

信州大学男女共同参画推進センターでも3年ごとにアンケートをやっていて、つい最近も集計したところですので、色々考えることがあって意見を言わせていただきます。細かい質問の項目を見てくるのを忘れてしまったので、的外れだったら申し訳ないのですが、年々、訊かれる側の学生さんの意識は上がってきています。昔と同じ訊き方をすると「なぜこんなことを訊かれなければいけないのか。訊く側の方に差別意識があるじゃないか。」という意見があります。授業等で先生たちが地方自治体のアンケート項目をそのまま使ったことがあったようで、炎上と言うか、「なぜこのアンケートに答えなければいけないのか」と。学生さんの意識は昔より高まっているから、こういう意見が出て、それはそれでいい授業になったということだったようです。

昔から同じ訊き方をするというのはわかるのですが、訊き方に気をつけて、訊く側は観測しようと思って訊くわけですが、観測される方もこちら側を観測していて変なジャッジをされることがあります。松本市はまだこの程度なのかと思われると損だと思imasので、その部分を気をつけた方がいいかなと意見として思います。

委員長

ありがとうございました。他にありますでしょうか。

委員

すみません。確認ですが、ちょうど今、市の方は新しい市長さんになったということもあって上位計画である総合計画を策定されていると思います。それにあわせても市民の皆さんに幅広くアンケートを取ったりしているのですが、その流れと今回のやろうとしていることと、考慮されているとは思いますが、その辺のことについて教えて下さい。

事務局

お答えします。市の上位計画である総合計画は今、策定が進んでいます。そちらの方は市民アンケートが終わりまして、今、まとめに入っている状況です。その下位の計画である男女共同参画計画は特化したアンケートという形で行わせていただきます。もちろん、総合計画の中にも男女共同参画という柱が一本入る形になります。

委員長

他にはよろしいでしょうか。

まだ（策定まで）時間がありますので、今後も色々なご意見がありましたら是非また事務局へお伝えいただき、より良いアンケートができるようによろしくお願いいたします。

それでは、これで会議事項は終了させていただきます。

これで議長の任を下ろさせていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。

事務局

委員長、副委員長、ありがとうございました。

それでは、「4 研修」に入ります。LGBTQと言われる性的少数者のための制度として、松本市が「パートナーシップ宣誓制度」というものを、この4月から開始します。今回、その制度と性的少数者の方への理解を深めていただくということで、研修を計画いたしました。

<研修 「パートナーシップ宣誓制度について」>

事務局

なかなか普段聞き慣れない言葉もあったかと思いますが、何かご質問等ありますでしょうか。

委員

松本市の「広報物における表現ガイドライン」（令和2年3月）というものについて伺いたいんですが、この委員会に参加するようになって、また10年前に一度参加させていただいた時からずっと思っていたのが、松本市に「ミス松本」というのがあると思います。広報に載っていたりして、若い女の人を選ばれているというのを毎年見て気づいていました。ここで言うべきかずっと悩んで、結局、最初の委員の時は言わず、前回の委員会の時もお話しませんでした。ずっと疑問だったのですが、私の生まれた田舎の地域では、ミスというのが、未婚の若い女性だけでなく結構間口が広くて、40代や50代の女性で活躍している方が選ばれていて、1年に2～3人くらい選ばれていくというのがあります。そういう風にならないのかなと思っていました。

ここを見て、また気づかされたのが、なぜ「ミス」でなければならないのかということで、ミスターコンテストがある地域もあると思いますが、「ミス」とか「ミスター」とかではなくて、これからはそういうものを乗り越えたものを選んでいかなければいけな

い時代なのかなと考えさせられました。実際、ガイドラインができたということで、このミス松本も何か今後変わっていくということがあるのか、その辺りを教えてもらいたいです。

事務局

ミス松本については、市と言うより商工会議所主体で市の観光イベント、市のPR大使としての参加をされているということで、以前、確認したことがありました。ミスコンというと水着を着て、ボディを強調するようなイメージがあるかと思いますが、自分の着たい服とアピールしたいことを重点に置いて選んでいるとお話は聞いています。

委員

ありがとうございます。水着の大会は、私の住んでいた田舎でも無いくらいで、そういうのをやっているのではないんじゃないかと思っていたんですが、年齢制限みたいなものが、「ミス」とついているので応募の段階で、そもそも若い年齢に限っているのではないかなと思ってしまって、実際、選ばれているのが30代以降の女性を見かけたことがない気がしました。もしご存知だったら、年齢制限があるのかとか、これからは男性も女性も関係なく募集するつもりがあるのかとか、わかる範囲で教えて下さい。

事務局

このことについては、担当している商工観光部長からも時代にあわないのでは、ということで、商工会議所に働きかけをしているということは伺ったことがあります。今までミス松本というのが、かわいい、きれいな女性で、それはそれで華やかになるしいかなと思ってはいましたが、こういうことに照らし合わせてみると女性や男性の固定的な役割を容認してきた慣例なのかなと改めて感じました。

松本市では性の多様性や個人の多様性を認めていこうという方針でいますので、これを機会に商工会議所にも担当部を通じて「もう少し間口を広げてもらえませんか。男性でも女性でもいいし、年齢を飛び越して松本市の広報大使として活躍していただける方が選ばれればそれが一番いいのではないかと、今日のご意見を伺いまして思いましたので、そんな働きかけをしていきたいと思っております。よろしくお祈りします。

事務局

他にご質問はいかがでしょうか。

委員

一つ教えていただきたいのですが、LGBTQはよく耳にしますが、今回「SOGI」という言葉をご説明いただきました。常に若い学生を抱えていますので、教えていただきたいのですが、これは違うものでしょうか。SOGIという言葉の方が、性的マイノリティの方々の包括的な言葉として受け取ったのですが、今後、LGBTQからSOGIというもっとざっくり包括的な言葉として使われていくという風に受け取りましたが、そんな理解でよろしいでしょうか。

研修担当職員

ありがとうございます。LGBTQというのは性的マイノリティの方々を総称する言葉として使われていて、これからも一般的に使われていくと思いますが、それとは別にSOGIというのはLGBTQの方だけでなく、性のあり方は私たちみんなの共通する問題、自分の問題という風に捉えられる、そういう言葉として使っています。LGBTQを語る時はSOGIも同時に話をしていいのではないかと思います。

委員

ありがとうございます。個人的にはLGBTQという言葉が既にあるというのは、差別があるからなのかなと、今後はLGBTQという言葉がなくても「SOGI」という言葉で包括的に理解や認識があればいいのかなと思った次第です。ありがとうございます。

事務局

それでは、時間が迫っていますが、何かご質問ありますでしょうか。ZOOM参加の方はよろしいでしょうか。

<質問なし>

以上をもちまして、令和2年度第2回松本市男女共同参画推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上